

# 京都の伝統織物で感動を！ 魅力発見プロジェクト

## 1 目的・概要



私たちは、京都の伝統織物やその文化的な背景を様々な観点から捉えることで、自分たちが感じた織物の魅力を発信することを目的に活動しました。

春学期は、メンバー自身が京都の伝統織物に対する知識を深めるため、調べ学習や、伝統織物の制作に携わる職人への取材を行いました。また、若者の京都の伝統織物に対する意識を調査するために、同志社大学生約 200 人を対象にアンケートを行いました。アンケートの結果か

ら、織物に興味を持つ若者は多いが、実際に身近なものとして織物を感じている若者が少ないということが明らかとなりました。

秋学期には春学期に学んだことやアンケート結果を生かして、京都の伝統織物をより身近に感じてもらい、魅力を知っていただくためにイベントを開催しました。イベントでは、パンフレットの配布、織物作品の展示や、制作工程の説明、道具の展示、柄箔体験・織物体験を行い、来場された方に織物の魅力を発信しました。

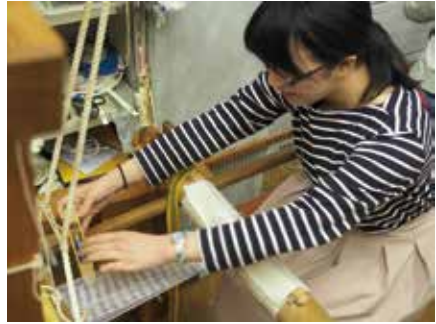
### Annual Schedule

#### 2018 年

- 4～6 月 伝統織物の製作工程の工房取材
- 7 月 アンケートを実施（学生対象）
- 8 月 課題解決への企画提案
- 9 月 夏合宿
- 10～12 月 展示会準備
- 12 月 京都市勧業館「みやこめっせ」の地下 1 階特別展示場 B にてイベント「きょう、出逢うー私と織物ー」を開催

## 2 成果達成度

春学期の成果として2つのことが挙げられると考えます。1つ目に、調べ学習や工房の取材を通して私たち自身の織物に対する興味や関心、知識を深めることができましたということです。調べ学習では京都の伝統織物の分業体制による制作工程や工房のことを調べ、知識を深めました。工房取材では、糸染め、柄箔、金糸等の職人の方々への取材を行い、分業体制それぞれの工程において、専門的な細かい技法が用いられることが分かりました。また、今後の伝統織物産業の課題を質問した時に、後継者の問題をほとんど全員の職人の方が述べていらっしゃったことが印象的でした。伝統織物は高価ですが、長持ち



する、風合いがあるなど素晴らしい面があるため、後継者に引き継がれ、伝統の織物産業が後世まで残ってほしいと感じました。このように、活動する中で、私たち自身も知らなかった織物の世界の奥深さを知ることができ、織物の魅力についての理解を深められました。

2つ目に、京都の伝統織物に対する若者の意識調査を行い、秋学期につなげられる結果を得られたことです。自分たちと同じ若者世代は織物をどのように捉えているのかを調査するため、同志社大学生約204人にアンケートを行いました。結果から、過半数の人が伝統織物に関心があると分かりました。しかし着物を着る機会が少ないこと、高価で敷居が高いといった理由から、織物を身近に感じる人は少ないということも分かりました。

春学期のこうした活動から、秋学期には、2つを目標とした企画作りを行うことになりました。1つ目に主に私たちと同世代の織物に疎遠な若者が織物を身近に感じられるようにすることです。2つ目に職人や歴史といった、織物製品の背景にある多様な魅力の発信です。

秋学期の成果として、上記の2つの目標を達成するために企画したイベントを開催し、目標を達成したことが挙げられます。イベントでは3つのことを主に行いました。1つ目にパンフレットの配布です。織物の制作工程を紹介するとともに、織物を作る職人に興味を持ってもらうためのパンフレットを制作し、イベント来場者に配布しました。普段、表に出る機会の少ない職人の方々の想いを伝え、織物制作の裏側の魅力を知ってもらうための工夫を施しました。2つ目は展示です。織物作品展示では、製品としての織物の美しさを直接伝え、展示全体に関心を持ってもらいました。映像展示では、職人の方々の技術や力強さを写した写真と映像、履修生から見た各工程の魅力を動画で伝えました。職人道具展示では、一般的に知られていない織物の制作工程や、職人の方々に注目してもらうために、道具の展示を行いました。3つ目に体験です。織物を身近に感じてもらうために、柄箔と呼ばれる、和紙に金銀箔や彩色を施した箔を作る柄箔体験や機織り体験の2つの体験を準備しました。柄箔体験では、台紙に金箔や銀箔を散らす作業を行



い、ラミネート加工して、しおりやレジストラップを制作してもらいました。機織り体験では、織った生地をくみボタンに加工し、イヤリングやヘアゴムなどの普段使用することのできるオリジナル小物を制作してもらいました。来場者に行ったアンケートでは、体験に対する満足度の方が展示に対する満足度よりも高いことが分かりました。また、10代、20代の若者がアンケート回答者の45%を占めており、「普段あまりできないような体験ができて楽しかったです」「実物展示が面白かったです」といった感想が寄せられたことから、数は少ないとはいえ、若者や第三者に対して織物の魅力を伝えるということが達成できました。

## 3 プロジェクトを通じて

私たちは京都の伝統織物やその背景にある日本文化の魅力を様々な角度から探り、そこで発見した魅力を履修生独自の形に変えて発信し、第三者に織物を通じて感動を届けることを目標に活動を行ってきました。このプロジェクトを通じて、職人の方々への取材、機織り等の工程を体験することで、織物そのものだけでなく、分業体制や織細で高度な技術といった魅力を知ることができました。イベントをするにあたっては、企画書の作成や会場の確保、広報、職人の方々への取材をもとにした展示のポスター・パンフレット作り、体験の試作品作りなど、数多くの準備を班に分かれて行いました。メンバーで協力して1つのイベントを作り上げ、このイベントを通じて、少しでもあるものの第三者に織物を通じて感動を届けられました。



### 編集後記

プロジェクトを行うにあたって、授業外でも話し合いの場が必要であり、また、企画の準備のために忙しいことも多かったです。しかし、メンバー皆で協力し、先生方やSAの方にアドバイスをいただきながら、伝統織物の魅力を伝えるためのイベントの準備をすることは、同時にとても充実していて楽しい経験でした。最後に、この1年間、プロジェクト科目を通してたくさんの人たちとの出会いがありました。プロジェクト科目を担当してくださった先生方、SAの方、織物に関わる職人の方々、イベントに来てくださった方々、履修生のメンバーの人たちにお世話になりました。たくさんの方々に出会い、お話を聞くことで、座学だけの講義とは異なる感動や発見があり、プロジェクト科目を履修してよかったと感じました。

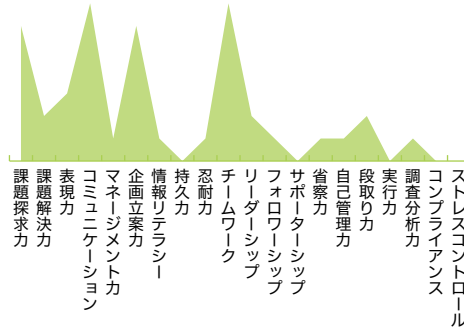
### プロジェクトメンバー

岩佐 実来子(法3) 岩田 真由子(文3) 奥井 彩加(社会3) 鯉田 涼香(GR2) 興侶 渚(政策2)  
野間 涼香(政策3) 廣瀬 由征(法3) 古本 聖香(文3) 松下 由果(法2) 松林 真里奈(文2)  
溝口 侑末(経済2) 宮下 真結子(経済2) 西本 奈那美(経済2) 山口 理沙(GR2)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

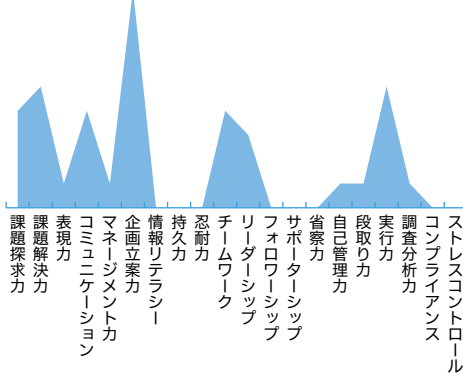
### 授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

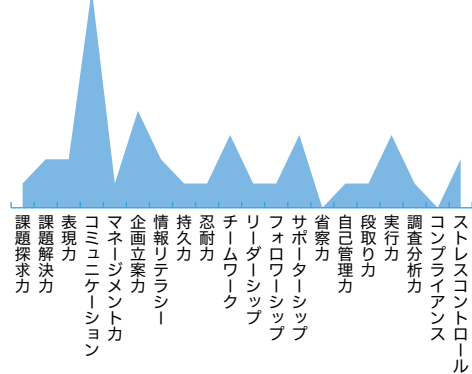


### 春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

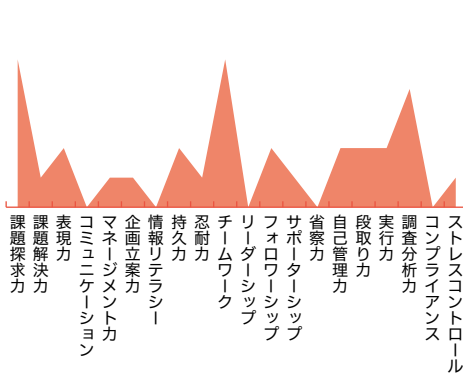


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



### 授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

